



しろがね学園だより

第94号 令和6年5月発行

新年度挨拶



4月から園長になりました彦部と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

私自身の話をさせていただければ、平成元年に当園に児童指導員として就職し、35年が過ぎました。就職当時の福祉業界は今とは多くのことが違っており、入所児童の様子もだいぶ違いました。当時の当園の入所児童の約半数が今でいう過齢児であり、日中はビニールハウスのクリップを組み立てる下請けの作業を行い、納期が近づけば職員が残業して下請け作業のクリップ組み立てをしていました。

また、特別支援学校に高等部ができて、中学卒業後に進学できるようになったのも私が就職して数年後です。高等特別支援学校は自力通学が基本であり、支援度の高い当園の児童は当時通学することができませんでした。つまり中学部を卒業すると18歳以上の過齢児と一緒に日中は園内で作業をしていたのです。そして成人施設の空きがあると移行するわけですが、当時は年齢制限もなかったので30歳近い利用者もいましたので、小学生から成人まで一緒に生活していたということです。

今は児童年齢の入所児童だけになり、年齢格差による支援のやりづらは減りましたが、障害特性はここ数年で大きく変化し、幅広い対応が求められ、支援の難易度は格段に上がっていると感じています。発達障害、ASD症、統合失調症、愛着障害、そして強度行動障害への対応等、職員もそれらの対応に苦慮しながら、日々の支援にあたっていることは同僚ながら感謝と共に敬意を表したいです。職員たちの力がなくては児童の支援はできないのです。職員の皆さん、いつもお疲れ様です。

児童はもちろんですが、児童の支援を支える職員も怪我無く幸せな日々を送って欲しいと思っています。そして、職員が幸せでないと児童も幸せに笑顔になれないとも思っています。児童も職員もみんなが幸せな日々を送れるようなしろがね学園であることが理想の施設の一つのかたちではないかと考え、そうなれることを日々願っています。

R6年度しろがね学園長 彦部 和夫



フレッシュマン紹介



新規採用職員としてしろがね学園に配属になりました。山本楓です。毎日が新しいことの発見で、大変なこともあります。日々子供たちの成長を見ることが出来るためやりがいを感じています。子供たちにとってよりよい生活が送れるよう、私自身も学びながら支援を行っていききたいと思います。

休日は、美味しいものを食べに行くことでリフレッシュしています。特にラーメンが好きなので美味しいラーメン屋をこれからも探し続けたいです。また体を動かすことも好きなので時間を見つけて気分転換したいと思います。

しろがね学園に配属になり、まだ数日ですが、子供たちと関わる中で支援を探索し、一人ひとりに寄り添った支援を行っていききたいと思います。よろしくお願ひいたします。



R6年度新規採用 山本 楓

